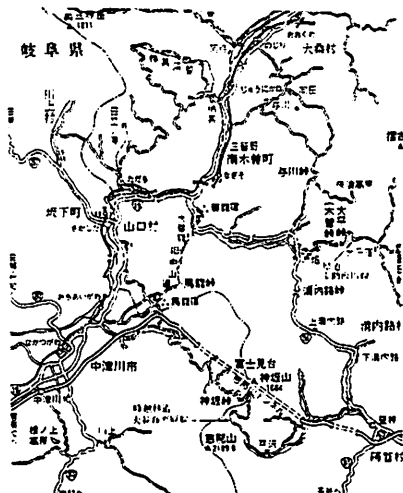


暖温二帯植物いろいろ

北 條 慎 一

S. Kitajo: Notes on Some Plants in warm and Cool Temperate Zones

暖温二帯の境界線を引いたのは奥原弘人先生である。植物研究雑誌第31巻第10号昭和31年10月木曾谷の植物と題して調査研究なされ筆者は当時岐阜県坂下実業高等学校に勤務し、奥原先生は長野県木曾郡山口村小中学校長としていろいろ種の段階で調査研究を直接御指導をいただいた。



岐阜県恵那郡坂下町にモミランがカヤノキに着生しており極めて珍植物であることがわかり、筆者は調査研究をし岐阜県指定の天然記念物にした。

茶の栽培の北限は木曾郡山口村と岐阜県坂下町でありタンニン含有量が多い。また坂下町恵那市にはヘビノボラスがあり、これは日本で限られた所に自生している。ソゴは長野県ではサカキとも言われ、神祭の際用いられる。このソゴは日本では仙台までであり、亜高木で冬は果実赤熟し大変美しい。コブシは坂下町あ◎◎◎シデコブシ、タムシバは高木

で北限である。アカマツは日本各地にあるも当恵那ではマツクイムシが寄生し枯木となった（昭和54年）クロマツは恵那には沢山ある。岐阜県東濃は高木のヒノキがあり、建築材として植林され林相は次第に変わりつつある。スギの高木は恵那市武並神社の大木があり保護されている。アラガシ、ウラジロザシ、ツクバネガシは暖地性のもので木曾郡山口村にあり、恵那には沢山あるヤブツバキも同様である。

早春筆者の庭にフキノトウが見られ、雑木林の中にマンサクの花が咲き初める。畑路傍にはオオイヌノフグリが紫色の花が咲き乱れている。またスミレの種類も沢山あるもツボスミレ、ヒカゲスミレ、マルバースミレなど目を引くシュンランは山野の林の中に見られ、早春咲くも開花期は長い。タンポポは当恵那ではトウカイタンポポ、カンサイタンポポ、シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ（恵那では四季咲きである）。春も盛りとなればミツバツツジ、コバノミツバツツジ、モチツツジ次第に咲き初めツクバネウツギ、コバノツクバネウツギ、ベニドウダンなども同様。5月上旬ともなればヒトツバタゴの開花、若葉と上に雪が降りかかった様になる。

夏ともなればシロツメクサ、ヒメジオン、アサヒユ、ツククサ、スベリヒユ、イノコズチ、アカザなど注目すべきであろう。カナビキソウは半寄生植物であり、イネ科の緑色植物の根に寄生している草丈は15cm～20cm位のものである。

秋恵那の原野路傍など散策すると、マツムシソウやワレモコウなどがススキやハギなど生育している所に開花して秋の訪れが感じられる。

生物の学名についての参考書

新刊紹介ではありませんが、生物の学名の意味を知るための日本語の参考書で、現在入手可能なもの（復刻版を除く）をご紹介します。

(1) 植物関係

上村 登 (1973, ed.5 1983) 「なんじゃもんじゃー

植物学名の話」北隆館

山田晴美 (編) (1975) 「園芸植物学名辞典」農業図書

豊国秀夫 (編) (1987, ed.2 1988) 「植物学ラテ

ン語辞典」至文堂

(2) 動物関係

内田清一郎 (1983, ed.2 1985) 「鳥の学名」グリーンブックス96、ニュー・サイエンス社

平嶋義宏 (1987) 「蝶の学名 その語源と解説」九大出版会

平嶋義宏 (1989) 「学名の話」九大出版会

他に、植物学関係の、下郡山正巳 他 (編) (1965, ed.8 1980) 「最新植物用語辞典」広川書店がありますが、ラテン語の語彙が少なすぎます。(H. T.)